



# PTAだより

第75号

平成23年3月1日発行

市P連広報委員会

印刷：有限会社 斉藤印刷



## 『生きる力』と『PISA型学力』 で思うこと。

小松市立学校PTA連合会会長 西出 稔

図形の平行四辺形の面積は簡単に求められるのに、平方四辺形の形をした公園の面積を求められない\*1。これは、今の日本の子供たちの姿です。一つ一つの学問に対しては、大変優秀な成績ですが、必要な情報を取り出して比較し説明する能力に課題があり、実生活の場面に活用することができないということです。子供たちだけでなく大人の世代にも同じことが言えます。新入社員も「指示待ち人間」が多くなったような気がするのには私だけででしょうか。また、何か分からないことがあると一人で考え込んでしまう傾向にあるようです。応用力や「生きる力」の基本となるところのコミュニケーションの手段をうまく使えないということでしょうか。

昨今、教育は「学習型学力」「活用型学力」「PISA型学力」という考え方が重要視されています。一言で言う、「答えを導き出すまでの過程が大事」と言うことででしょうか。あたりまえの常識や感覚が、今はあたりまえでなくなり、何が善で何が悪

図形の平行四辺形の面積は簡単なのか、何が道徳なのか、何が正義なのも含めて、考える力の育成が必要です。「正解の無い問題」に取り組み議論し、その過程や経験を大切にし、学問も理念や志を持つて学び、本当の「生きる力」を養う必要があるのではないのでしょうか。

私たちは、このように問題提起し、大人としての経験や知識を子供たちに伝え、地域社会を通じて子供たちに対して健やかな環境を作り、そして、時には遠くから見守ることが大事なのではないでしょうか。これは、子供たちを取り巻く環境に、学校や家庭だけでなく、地域や社会が大きくかかわり、自主的に実践し、支えていく時代になったということでしょう。次代を担う子供たちの健やかな成長を地域みんなで応援していこうではありませんか。

\*1) OECD(経済協力開発機構)が国際的に行っている生徒の学習到達度調査  
\*2) 全国学力・学習状況調査(小6)によると、図形の平行四辺形の面積の正答率は96.0%、正方形と平方四辺形をした公園の面積の比較の正答率が18.2%

## 東海北陸ブロック大会 PTA研究大会

荒屋小学校教育友会



平成22年10月23日に「東海北陸ブロックPTA研究大会福井大会」が開催され、本校は「見直そう 環境と生活 親、家族の役割とは」をテーマにした研究発表を行いました。

「環境」については、美しい地球環境を守り、未来につなげていくための講演会、地域の方々と連携した美化活動、エコチェック活動等に取り組んできました。「生活」については、「早寝早起き朝ごはん運動」を積極的に推進し、ゲーム・インターネット・ケータイ等の「メディア」との関わり方を見直し、「命の大切さ」、「生きる喜び」、「親子のコミュニケーション」を重視する活動等に取り組んできました。

今回、このような大きな大会で発表する機会を与えられ、他校の素晴らしい活動内容を拝聴できたことは、PTA活動の大きな励みとなりました。また、この大会を通して、子ども達の健やかな成長のために、親、学校、地域が協力し、安全で安心できる環境を作り、生活習慣を改善する取り組みを今後も継続し、啓発活動を推進していくことの重要性を改めて実感することができました。

最後に、これまで本校の活動にご協力を頂きました関係者の皆様に心から感謝し、御礼を申し上げます。



# 早寝早起朝ごはん運動

大人が変われば子どもも変わる

## 小松市民大会



◆日時 平成22年11月14日(日)13:30～ ◆場所 こまつ芸術劇場うらら 大ホール



### 「早寝早起朝ごはん運動」を通して

小松市立学校PTA連合会 特別委員会委員長 新田 寛之

小松市立学校PTA連合会では、今年で4年目となった『早寝早起朝ごはん運動』を、今年から地域まで、小松市全体で活動に取り組みました。子ども達には規則正しく生活するために、今年も夏休みの前半と後半の一週間に「生活習慣チェックシート」を付けてもらい、規則正しい生活リズムや行動意識を高めました。11月14日(日)にこまつ芸術劇場うららで開催しました『早寝早起朝ごはん運動 小松市民大会』では、夏休みに募集した「標語」「ポスター・絵画」「我が家の朝ごはん」各部門と、「ラジオ体操プラス1運動」をより活発に推進した地域功労者部門の表彰をさせていただきました。そして、過去3年間の生活習慣チェックシートのデータを分析し、その結果と傾向を報告をさせていただきました。後半の講演会では、石川県七尾市出身のパティシエ辻口博啓氏をお招きし、世界で成功した辻口さんの幼少期

のお話や、夢を持つことの大切さ、必要性を語っていただきました。また、講演会の後半では、地元アナウンサーの新井智子さんと交え、新井さんの巧みなり、1ドで辻口さんとの軽快なトークを繰り広げ、夢あり笑いありの楽しい一時を会場も交えて過ごすことができました。

時代や生活がどれだけ進化しても変わらぬ普遍の価値観、それが『早寝早起朝ごはん運動』ではないかと思えます。朝ごはんを食べれば良いという考え方から、バランスの良い朝ごはんを食べようという高い意識に変わってきています。「大人が変われば子どもも変わる！」これからも小松市立学校PTA連合会では、大人が意識を変え、子ども達のお手本となるように家庭から地域まで、市民全体で今後も『早寝早起朝ごはん運動』に取り組んでいきたいと思っております。今年度も『早寝早起朝ごはん運動』にご協力いただきました。本当にありがとうございます。

### 講演会

演題

#### パティシエ教育学

みんなで語ろう、夢

講師 辻口 博啓氏 (パティシエ)



幼少の頃、食べたショートケーキの感動から3度世界大会に優勝するまでの努力と経験談を、わかりやすく紹介していただいたほか、子ども達が夢を抱けるように様々な機会を大人が提供する必要性をご提案いただきました。

### 朝ごはん運動> 入賞者のみなさん

#### ☆「我が家の朝ごはん」部門

矢田野小学校 2年 山本 柚凜さん・蓮代寺小学校 5年 竹内 彩羽さん  
苗代小学校 4年 服部 耕樹さん・第一小学校 6年 黒田 晴世さん

#### ☆「我が家の標語」部門

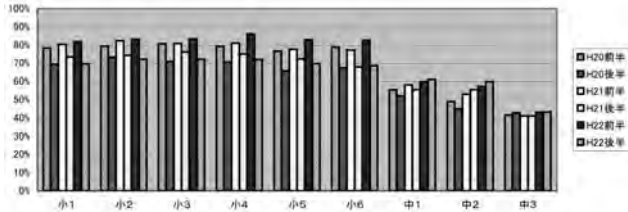
荒屋小学校 3年 大橋佑太郎さん・矢田野小学校 6年 庭田 朱梨さん  
矢田野小学校 4年 菊川 由羽さん・稚松小学校 6年 高 由依佳さん  
稚松小学校 5年 永井 新大さん

# 生活習慣チェックシート結果報告 (一部抜粋)

詳しくは、ホームページをご覧ください。

## 生活リズム

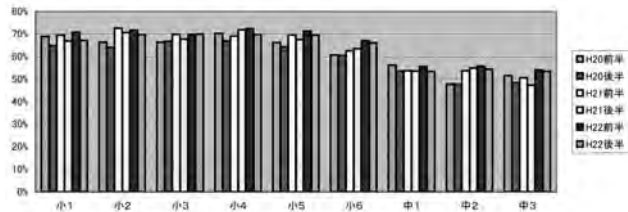
朝6時30分までに起きた人の割合



夏休み前半については、全ての学年において、早起きできた割合が増えている。特に小学4・5・6年生の割合の増加が顕著である。夏休み後半については、小学生は6年生以外早起きできた割合が昨年より減少し、中学生は増加している。上の学年が早起きできるようになっていることはよい傾向である。5年生以下は数値そのものは6年生以上に比べ高いので、今後夏休み後半にも早起きの意識を上げられるようにしていくことが課題といえる。

## 規範・ルール

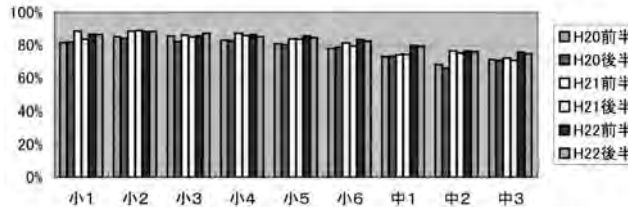
家の手伝いをした人の割合



小学5年以下に比べ、6年以上の学年では手伝いをする割合は低く、中学生では5割台である。意識だけの問題ではなく、中学生になると自身の生活そのものが忙しくなることも原因として考えられる。3年間で全体的に横ばいであるが、少しずつ手伝いをする割合が増えており、よい傾向にあるといえる。

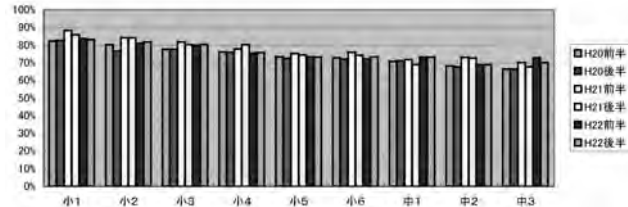
## 食と団らん

朝食を<主菜+副菜>で食べた人の割合



全体的に横ばいであるが、3年間でバランスよく食えることができるようになってきている。中学生では割合の増加は著しい。△主菜+副菜▽というチェック項目は家庭において食事のバランスに留意する具体的な基準になったのではないかと、単に朝ごはんをとるという段階からバランスを大切にする段階へ、食に対する意識が高まっているといえる。

1日1回以上家族そろって食事をした人の割合



全体的に割合が大きく増加した昨年度に比べ、今年度は家族そろって食事できた割合が減少している。家族そろって食事をとることは、それぞれの家庭の事情によることも大きいですが、家庭でのコミュニケーションを考える上で食卓という場は欠かすことができない。まずは1食を家族そろって、という気持ちをお大切にしたい。



### ☆ 地域功労者部門

おびし町子供会 様  
野田町公民館 様

### ☆ 「ポスター・絵画」部門

日末小学校1年 鈴木 勇仁さん・第一小学校6年 埴田 明里さん  
安宅小学校4年 沢田 七虹さん・中海中学校3年 山口めぐみさん

<早寝早起き



## 第3回母親委員会 グループ別研修発表

■日時 平成22年10月8日(金) 19:00～

■場所 第一コミュニティーセンター 多目的ホール

第2回母親委員会の講演会で、藤原清道先生の『親の言い分 子どもの言い分』を拝聴し、その中から各グループでテーマを見つけ出し、親子関係のあり方について討論し合い、研修しました。各グループで何度も集まり大変でしたが、大変意義のある勉強ができました。各小・中学校に活動内容の冊子を配布してありますので、是非御覧下さい。

### Aグループ

#### 『親子でチャレンジ』

身近なお手伝いを通して、親子間のコミュニケーションを各家庭で図り、結果を集計し、より良い親子関係を築く。

浅蔵 一華 (第一小) 行松 明美 (稚松小)  
出倉 史恵 (犬丸小) 鈴木 桂子 (串 小)  
西尾 通江 (日末小) 田川 陽子 (中海小)  
竹内 智恵 (西尾小) 吉田 晶子 (東陵小)



### Bグループ

#### 『子どもに伝えていますか？親の気持ち とれていますかコミュニケーション』

親子間のコミュニケーションの内容をアンケート調査をもとに分析。親も子どもに対して素直な気持ちで会話をすることが大切。

北村 美香 (那谷小) 中出奈美恵 (荒屋小)  
大嶋 悦子 (苗代小) 谷口 美幸 (蓮代寺小)  
西村 優子 (矢田野小) 瀬川美智子 (粟津小)  
中山 直美 (国府小) 村井 由恵 (能美小)



### Cグループ

#### 『見直そう!! 親子のコミュニケーション』 ～出来るかな？親子の会話改造計画～

親子間のコミュニケーションのあり方を考え直し、他の家庭の現在の状況をアンケート調査を行い分析。子どもを変えるのではなく、まず親から会話を少しずつ変えていこう。

藤原ひとみ (芦城小) 藤田留美子 (木場小)  
元田 理香 (安宅小) 土中真紀子 (向本折小)  
石谷 房子 (今江小) 中川 恵 (符津小)  
川島 和美 (波佐谷小) 梅川ゆかり (月津小)



### Dグループ

#### 『子どものココロとカラダの変化』 ～中学生の母はおもしろい～

思春期の子どものカラダと生活の変化を理解し、同じ目線で、正面からぶつかり、親に愛されているという安心感を与える事が大切。

池田真理子 (丸内中) 生田美和子 (御幸中) 川端喜美恵 (南部中)  
嘉藤 志保 (松陽中) 酒井由美子 (芦城中) 市村 和子 (板津中)  
北山 早江 (安宅中) 酒井美佐子 (国府中) 中江 淑恵 (中海中)  
太田 晶子 (松東中)



# 母親委員会

■日時 平成22年10月27日(水)

■場所 和倉温泉 加賀屋見学及び研修

加賀屋では客室係教育担当の<sup>ナガコ</sup>長子さんに、おもてなしの心や子育ての事など、盛り沢山のお話をお伺いする事が出来ました。



## 研修参加者の感想

- \* 加賀屋の客室係教育担当の長子さんのお話で、『笑顔は最大の武器』・『クレームは自分のプラスに考える』等、心に残る言葉となりました。
- \* 優しい語り口で数々の体験を元にした興味深いものでした。
- \* 新人の接待係を教育していく過程と子どもを育てていく過程に相通ずるものが沢山あり、有意義だった。

## 読んで みまっし♪

辻口博啓のたのしいスイーツ  
辻口 博啓 著



おいしいスイーツを自分で作って食べてもらえるように、解りやすく、楽しく、気軽に作れるレシピが満載された1冊です。



家族で作ってみまっし!!

## 「ありがとう」の言葉

母親委員長 澤田 幹子



「ありがとうという言葉は、心を癒す言葉です。」これは、加賀屋客室係教育担当の長子

(ナガコ)さんが講演会でおっしゃっていた一文です。

よく口にする言葉ですが、私自身、身近な人には思っていない言葉に感じました。周囲の人にはもちろん、家族間で、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝え合うことにより、お互いに癒され、温かい気持ちになれると思います。そうになると、自然と相手に対して不平不満も無くなります。あたりまえではなく常に感謝し、「ありがとう」と言葉で表現していきたいです。また、子どもにも、その気持ちを忘れないで欲しいと願います。

最後になりましたが、母親委員の活動を通じて多くの方と出会う、沢山の事を学びました。今後のPTA活動に生かしていきたいと思っています。

母親委員の皆様におかれましては、一年間ご協力いただきましてありがとうございます。

## 今年度

広報は私達が担当しました。

中川 恵・谷口 美幸  
田川 陽子・梅川ゆかり

# 第13回 小松市中学校新世代会議

## 事業概要

- **日時・場所** 平成22年11月21日(日) 14:00~16:45 第一地区コミュニティセンター2F 多目的ホール
- **事業目的** 子供達が今、何を考えているのか本音や生の声を聞き、今後のPTA活動の参考とする
- **対象者** 小松市立中学校生徒 40名(各中学校二年生 男女各2名)
- **事業内容** 4テーブルに分かれ、テーマについてのディスカッション(司会・進行は生徒主体)の実施  
テーマ「コミュニケーション」



### ○ コミュニケーションって?

・心を通わせる手段 ・仲良くなるための手段 ・心と心のキャッチボール

### ○ 親や先生、大人とのコミュニケーション

・自分の気付かない深いことは注意してほしい(ただし、言い過ぎ・上から目線は嫌)  
・そろって食事して話すときは楽しい ・頑張ったと認めてくれたらうれしい  
・最後まで話を聞いてほしい

### ○ 友達に・・・

- ・トラブルがあっても、謝れるのが友達
- ・うれしい事やつらい事を一緒に話したい
- ・部活動で、先生と部員に食い違いがあるコミュニケーションが不足している



楽しく、  
時には真剣に・・・

### ○ 目指すコミュニケーション

- ・親にこうしてほしい時は自分から言う
- ・自分中心にならずにコミュニケーションをとる
- ・自分から積極的に行くことが大切
- ・素直な自分で接する



参加して頂いた皆さん御協力ありがとうございました。

## 第13回 小松市中学校新世代会議

### 「コミュニケーションは、心と心のキャッチボール」



新世代委員長 山崎 由裕

今年度のテーマは「コミュニケーション」です。最初は緊張していた生徒達も、ゲームや自己紹介で打ち解け、討論が始まったら、自然に意見と笑顔が溢れてきました。初対面の同学年と屈託なく話す姿に、思わず「若さっていいなあ」と中学生の中で感じました。しかし、大人になるに従って、この素直な気持ちで、人と接することが出来なくなってしまうと思います。それは、いろいろな人間関係の利害の中で、コミュニケーションが難しくなってくるからだだと思います。

中学生は、友達とはコミュニケーションがとりやすいのに親や大人に対しては、苦手意識を持っています。その原因が親にもあることを、会議の中で生徒達から多くの意見がだされました。生徒からの、コミュニケーションとは、「心を通わせる手段」、「心と心のキャッチボール」との意見に、親として考えさせられました。討論の最後で、感想として生徒が言った「素直な自分で接したい」という言葉に、多くの生徒がうなずいていました。それは、自分に対してだけでなく、相手にも、そして親にも求めている気がしました。

多感な中学時代に、家庭においても親子のコミュニケーションを良くすることは、子供の生活の安定や人間形成に影響し、大人になっても良い人間関係を得るコミュニケーション能力を高めることにつながります。

生徒達は、この会議を通じて、議論することの大切さや、同じ年の友達が同じように悩んでいること知ったり、経験のない現実気付き、視野が広がり、一回り大きくなって帰ったと信じています。

この新世代会議の報告書は、市内中学生の全保護者に配布してありますので、ぜひ御一読して頂き、家庭での参考になれば幸いです。

最後になりましたが、4月より準備を重ねられた新世代委員ならびに出担当校長、そして御協力くださった母親代表の皆様の御尽力のおかげで、無事、本会議が開催出来ましたことを、心より御礼申し上げます。





オープニングは“稚松小学校・太鼓クラブ”の華麗なパチさばきが披露されました。



カフツキー参上!



各入賞者の皆さんおめでとうございます。



沢山のご応募ありがとうございました。



辻口さんの特設店も大人気でした。

# 早寝早起き朝ごはん運動 小松市民大会 オフショット



講演会後半は小松市在住の新井アナが花を添えてくれました。



講演終了後はサイン会と握手会。

## 小松市立学校PTA連合会の「自転車総合保険・こども総合保険」のご案内



病氣入院にも対応

未加入の方は4月に  
申込できます。  
ぜひご利用ください。

### 当制度の特長

- ① 団体割引適用により割安です。
- ② お子様のケガに加えて家族全員の賠償責任も補償
- ③ 5万円以下の保険金の請求・支払は電話一本でOK
- ④ 小松市の50%以上のお子様が利用しています。

### ご加入者様の VOICE

加入していて、本当に良かった  
小松市在住 A様

この度は、子供の自転車の接触事故の件で、色々とお世話になり有難うございました。初めてのことで、わからないことばかりでしたが、手続きの方も迅速かつ丁寧にしていただき、心より感謝しています。相手の方も抜糸し順調に回復されており、本当に良かったと思っています。



# 単Pだより

松東中学校

## 勸進帳公演を終えて

### 学校支援

松東中学校育友会会長 中川 透

小松市制70周年記念事業の一つであり、小松市中学校文化連盟の事業として、市内十校の持ち回りで行っている歌舞伎十八番の内「勸進帳」の公演が今年には松東中学校の順番となり、11月9日(火)に「中学校古典教室」に出演する運びとなりました。また、その直前の11月6日(土)にも「松東中学校文化祭」として広く地域や一般の方々にも鑑賞して頂くため、いずれも「こまつ芸術劇場うらら」にて催されました。

我が校は全校生徒92名がそれぞれ役割を持ち、全員でこの事業に取りかかることとなりました。

折しも本育友会は、昨年度から、市内中学校では初の学校支援地域本部(学校支援ボランティア)が設けられました。この事業は、文部科学省が、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てる体制を整えることを目的として平成20年度よりスタートさせたものです。

我が育友会は、この学校支援ボランティアの活動として、地域の教育力を生かすため、「勸進帳」にタイアップし、学校をサポートできないかと考えました。

まずは、学校側と協議し、必要な支援事業を洗い出しました。その内容は、勸進帳の着付け、化粧、楽器指導者などの人材発掘や、夏休み中の長唄、鼓、笛、三味線、役者などの練習送迎計画、本番当日の大道具や花道設置等の舞台設置、チラシや有線放送などの広報計画、地域から来られる方の送迎計画など様々。

各委員会は役割を分担して活動を行い、着付けなどは地域の方を中心に、練習送迎計画は保護者、舞台設定は保護者と役員、広報は町内会長などに依頼するなど……

この「勸進帳」が媒体となり、学校・家庭・地域が一体となって進んで行けたということが、まさに学校支援ボランティア本来の目的を達成したのではないかとということ、更には、生徒自身もみんなに支えられて活動していることを感じてもらったのではないかと自負しているところです。

そして、この「勸進帳」が大成功のうちに終わることができたのも、只ならぬ教職員の篤いご指導があったからこそと感謝しています。それに増して何よりも生徒たちがそれぞれの役割を一生懸命にこなし、その思いが伝わってきたことが、あの感動を心に刻んだのだと思います。

最後になりますが、今後も、この「地域で育てる」をキーワードに育友会活動を続け、よりよい学校環境と松東地区の発展に繋がればと良いと思っております。



## ひだまり

### 人との出会い

小松市立学校PTA連合会

副会長 菅野 美伊

小松が地元ではない私ですが、いろんな方との出会いがありました。私達は夫婦二人、転勤で小松に来て、子どもが一人生まれ、また一人と二人の子どもにも恵まれました。その二人の子どもを通して、単Pで役員を六年、更には市P連合会副会長という役もやらせて頂きました。その中で、母親委員会、小松市教育センター運営委員会、奨学金の支援、小松市男女共同参画推進委員会、小松市明るい選挙推進協議会を担当しました。

多くの方々との出会いの中で、子どもを通して社会、学校により関心を持ち、活動することが出来ました。また、親として周りの方々にも助けられ、育てられ、その親の姿を見て、我が子も育っているのだと思うと素敵な活動に参加させて頂けた事に感謝しています。ありがとうございました。

### PTA活動を振り返って

小松市立学校PTA連合会

副会長 黄木 幸代

長女の小学校入学から、はや16年。その間、いろいろな形で、PTA活動に関わらせていただき、そのご縁で、それまで知らなかった地域の様々な活動にも、ふれることが出来ました。そんな中で子ども達が、本当にたくさんの人に見守られて育っているんだということを、実感する機会も多くありました。

ある都会での話ですが、「ここで遊んでほしくないよ」と子どもに声をかけたところ、それが不審者として報告されたとか。これは、笑い話のような極端な話で、ネットでも話題になってたのですが、地域での子育ても、簡単ではない時代になってるんだなあと考えさせられました。同時に地域やPTA活動の必要性や、連携の大切さも感じました。

たくさんの方の見守りの中の一員として、これからも、他人事ではなく、自分ができる関わりをしていきたいと思えます。

## 編集後記

今年度は委員長として市P連だより発行に携わってきました。PTA活動に関心を持って頂けたらと思いつつも、如何だったでしょうか?。さらにホームページでは、写真も見やすく、小紙では伝え切れなかった記事も載せていますので、是非ご覧下さい。市P連だより発行に関わって頂いた全ての皆様ありがとうございました。

目か回る一年でしたが、市P連活動を通して地域参加出来た事に感謝します。

広報委員長 坂口晃裕